



2010年9月期 連結決算及び事業概要

株式会社マルハニチロホールディングス
代表取締役社長 久代 敏男

平成22年11月8日



1 事業環境と中期経営計画(DW21)

2 連結決算の概要

3 事業トピックス

4 海外売上高

5 通期予想と新中期経営計画に関して

1-1. 事業環境と中期経営計画(DW21)



水産・
食品業界

デフレ進行による個人消費の低迷
厳しい経営環境

中期三カ年経営計画

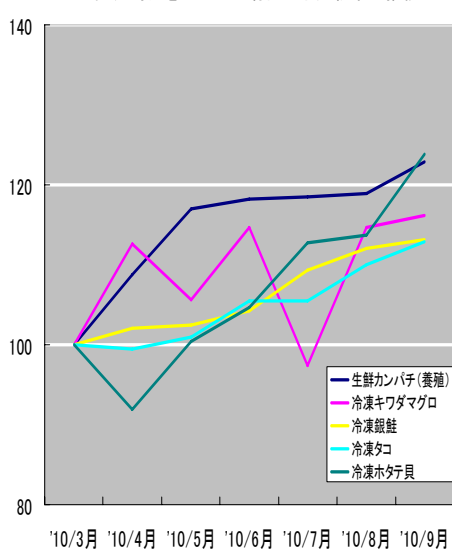
「ダブルウェーブ21」目標達成に注力

マルハとニチロの経営統合効果の追求

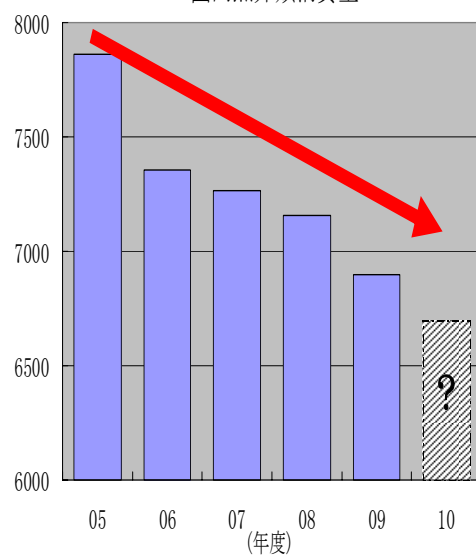
1-2. 事業環境と中期経営計画(DW21)



(%) 10年3月時点を100とした場合の水産物市況推移



(千トン) 国内魚介類消費量



2-1. 連結損益計算書



(単位: 億円)

	2010年9月期		増減	中間計画	進捗率	年間計画	進捗率
	実績	前年同期					
売上高	4,052	4,053	△ 1	4,100	99%	8,500	48%
売上原価	3,491	3,519	△ 28				
売上総利益	561	534	27				
販売費・一般管理費	480	490	△ 10				
営業利益	82	44	38	75	109%	180	46%
営業外収益	16	20	△ 4				
営業外費用	35	33	2				
経常利益	63	32	31	60	105%	140	45%
特別利益	5	14	△ 9				
特別損失	33	7	26				
税金等調整前当期純利益	35	39	△ 4	43	81%	96	36%
法人税等	11	8	3				
少数株主利益	2	5	△ 3				
四半期純利益	22	26	△ 4	20	110%	45	49%

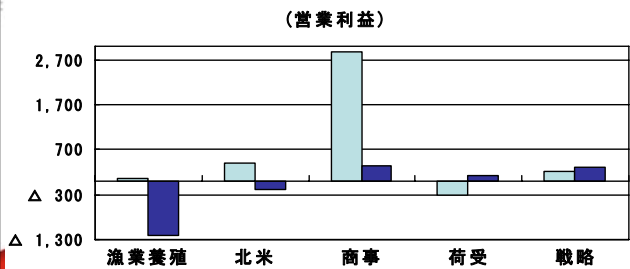
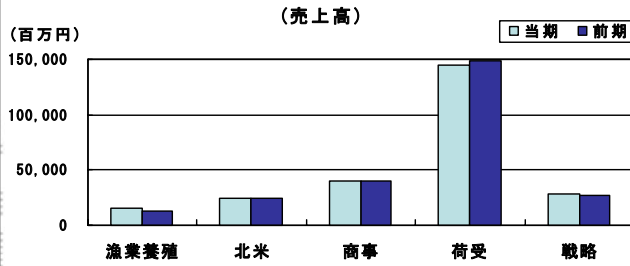
2-2. ユニット別損益表



(単位: 億円)

	2010年9月期									
	売上高					営業利益				
	実績	前年同期	増減	年間計画	進捗率	実績	前年同期	増減	年間計画	進捗率
漁業・養殖ユニット	151	126	25	336	45%	1	△ 12	13	10	-
北米ユニット	251	246	5	488	51%	4	△ 2	6	8	50%
水産商事ユニット	398	400	△ 2	843	47%	29	3	25	27	107%
荷受ユニット	1,454	1,492	△ 38	3,129	46%	△ 3	1	△ 4	12	△ 25%
戦略販売ユニット	281	267	14	537	52%	2	3	△ 1	5	40%
水産セグメント計	2,535	2,531	4	5,333	48%	32	△ 6	39	62	52%
冷凍食品ユニット	576	585	△ 9	1,190	48%	24	32	△ 8	52	46%
加工食品ユニット	395	408	△ 14	817	48%	18	18	1	43	42%
畜産ユニット	227	204	22	473	48%	7	△ 3	10	12	58%
化成品ユニット	68	65	2	131	52%	6	6	0	11	55%
アジア・オセアニアユニット	127	130	△ 3	281	45%	4	9	△ 4	15	27%
食品セグメント計	1,392	1,393	△ 1	2,892	48%	60	61	△ 1	133	45%
保管・物流セグメント計	71	77	△ 6	152	47%	3	6	△ 3	16	19%
その他セグメント計	55	53	2	123	45%	5	3	2	10	50%
全社セグメント計						△ 18	△ 20	2	△ 41	44%
合計	4,052	4,053	△ 1	8,500	48%	82	44	38	180	46%

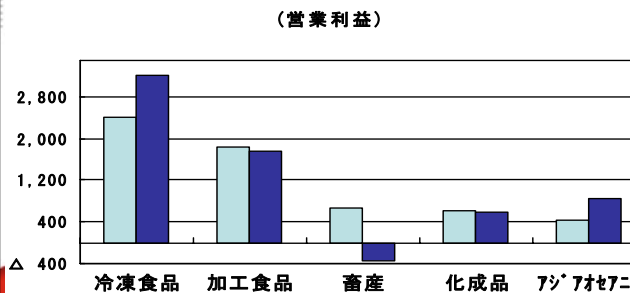
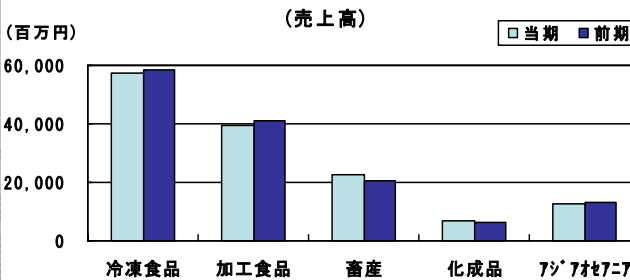
2-3. ユニット別損益(水産SEG)



(水産セグメント)

- ・漁業養殖ユニット
養殖マグロの販売数量増加、養殖カンパチ、ブリの市況堅調、マグロ・カツオの不漁
- ・北米ユニット
国内すりみ市況の改善
- ・水産商事ユニット
市況は全般的に堅調に推移、輸入マグロの棚卸評価損解消
- ・荷受ユニット
市場内流通の販売不振、取扱数量減少
- ・戦略販売ユニット
量販・生協向けの販売堅調も、仕入コスト上昇

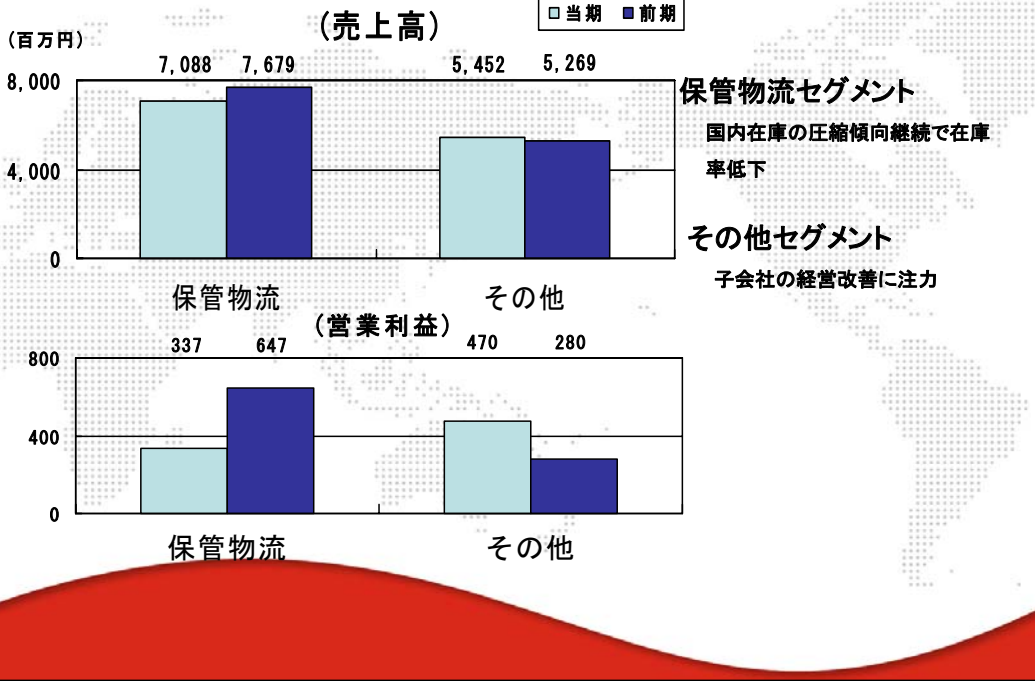
2-4. ユニット別業績(食品SEG)



(食品セグメント)

- ・冷凍食品ユニット
原料値上げによるコスト増、外食向けの販売低迷
- ・加工食品ユニット
ギフト向けの缶詰や魚肉ハムソーなど販売不振も、猛暑効果などによりデザート商材が好調に推移
- ・畜産ユニット
輸入ホークの取扱増加や輸入鶏肉棚卸評価損解消
- ・化成品ユニット
雑炊、カップ麺向けFD商材が順調に推移
- ・アジアオセアニアユニット
ツナ、エビ等の原料価格上昇やパーツ高で収支悪化

ユニット別業績(保管物流SEG 他)

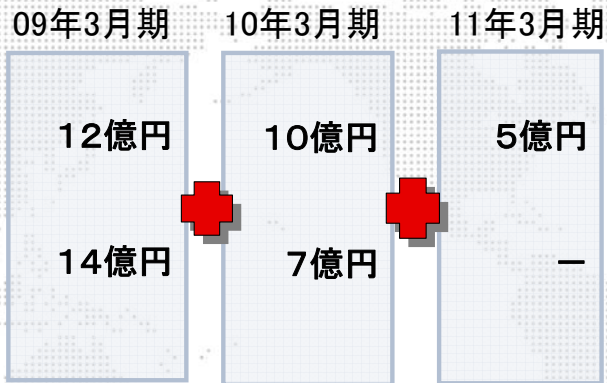


2-5. 統合効果について(08年~10年度)



コスト削減効果

- 本社・支社事務所等経費削減
- 労務費削減



事業統合3年で総額48億円の統合効果

2-6. 連結貸借対照表



(単位: 億円)

	10年9月末	10年3月末	増減		10年9月末	10年3月末	増減
流動資産	2,504	2,520	△ 16	負債 (うち有利子負債)	4,165 3,059	4,219 3,147	△ 54 △ 88
固定資産	2,385	2,494	△ 109	純資産	725	794	△ 69
資産合計	4,890	5,014	△ 124	負債純資産合計	4,890	5,014	△ 124

10年9月末の自己資本比率は
12.1%

3-1. 水産セグメント



養殖分野



- 串本設立
- 8カ所9漁場
- 4000トン規模の出荷体制に



漁場

養殖分野

- 完全養殖
- 2万尾沖だし
- 2013年の出荷期待



3-2. 食品セグメント



冷凍食品分野

- 林兼デリカ買収
(熊本県)
- 家庭用、業務用冷凍食品生産設備強化



3-3. 食品セグメント



化成品事業

- フィッシュコラーゲン
- DNA
- 高度精製魚油
DHA・EPA



宇都宮工場に化成品工場新設

3-4. 事業構造の効率化



北米子会社の統合

～ プレミアパンフィックとシュプリームアラスカの統合

新潟フレッシュデリカと湘南フレッシュデリカの統合

～ 統合新会社「デリカウェーブ社発足」

ニチロサンパック工場の整理・効率化

～ 山形工場を閉鎖し、生産体制を効率化

ニチロ工業の売却

～ ノンコア事業で収益性の低い子会社の整理

4. 海外売上高



5-1. 通期の業績予想



	11年3月期	前年比
売上高	8,500億円	103%
営業利益	180億円	167%
経常利益	140億円	181%
当期純利益	45億円	284%

5-2. 新中期経営計画に関して



新中期三ヶ年計画

- 1 成長戦略の策定** ▶ 海外市場を鍵としたM&A案件への取り組み
- 2 グループ各社の経営体質の強化** ▶ 改善策を策定し、グループ全体の収益構造を底上げ
- 3 財務体質の強化** ▶ 在庫の圧縮など資金の効率化に努め、自己資本比率を改善
- 4 コンプライアンスの徹底** ▶ コンプライアンスの徹底と環境への配慮で、企業の社会的責任を遂行

5-3. 新中期経営計画に関して



平成23年度
スタート

中期三カ年経営計画を策定・遂行



水産・食品業界において確固たる存在
世界になくはない企業集団に



当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料は著作権やその他本書類にかかる一切の権利は株式会社マルハニチロホールディングスに属します